

やくそく さだめについて

◎ 1. やくそく 入隊に際して行はれる。

BOY SCOUTの様に、その厳しさは求めていません。

そのことは、まだ、精神的に無理だからです。「僕は、まじめに。。。」とある
僕は、とは自身の自発活動を求めています。従つて、僕達とか、僕等とか、の複
数でないことに、留意して下さい。やくそくは、1つには自分自身に、2
には自分達の仲間にします。この、ねらいは、自分で自分の責任をとる、その
導入にあつて、他人や、DM、隊長、等に対する責任、即ち、他律的なやくそく
でないことに第二に留意してほしい点です。

従つて自分自身を省り見て「まじめ」と続き、「しつかりやります」と入が見て
いようが、いまいが全力をあげて、自分自身のベストをつくすことにねらいがあ
ります。

◎ 2. さだめ まず、カブスカウトのさだめ、となつていないこと、

カブ隊のさだめ。。。とあることに留意して下さい。

少年隊以上は、スカウトの1人、1人が守るべきものであるのに対し、カブは、
隊のさだめとなつています。このことは、自律自省の力の弱いこと、その為に
自律を育てる為の手段として、他律が示されています。

それ故に、隊のさだめに従はせ、秩序と規律が重要視されているのです。

◎ 3. 分析 隊長ハンドブックにも示されています様に、

- 1. 目上の人 2. 自分に対するもの, 3. 同輩に対するもの,
- 4. 目下の人 5. 全体に対するもの と夫々の在り方を示し

ています。人間関係の上下左右自己と全体、等に対する生活規準であることにお
気づきいただけましょう。ここで、私達が最も、説りやすいことは、カブの
個々人の”さだめ”と、とりあつかつてしまいがちになることです。

あくまで、隊のさだめであつて、前述の意を、よく、お含み下さい。

従つて、カビングは、訓練でなく、”しつけ”であること、あくまで少年達の、環境
の明るさ、温かさ、での修得選択課目を通して、行はれて行きます。

幼い心に、自分でちかい約束して人間としての歩みが始められ、生活を支配して行く。

- * すなをである。。。少年の純すいな素直な心をより育て、世の中の秩序を守ることの大切さを教へ。
- * 自分のことは、自分でします。。。とは、自律の精神への第一歩の段階としてあり、自分の手ですることの楽しさを味わせることから始ります。
- * 助けます。。。相互扶助、兄弟、との高い精神から、すべての人、すべてのものと、共に生き、生かされて行く尊さを教へています。
- * 幼いものをいたわります。。。。とは、慈愛の心を養い、愛護の心を、幼、老、病、そして動物、植物にいたるまで、と表現している。
- * 進んで、よいことをします。。。積極的に、日日の善行をすることを示しています。以上により、素直、自律、相互扶助、慈悲、愛護、善行、等が、その基本となり、修得選択課目と結ばれて、よりよいカビングの{しつけ}の基盤となり、選択課
目となつて、ゆたかな生活をうるほす向上の糧となる様にある。

以上、カブスカウトの年令的生理的、心理的に、最も保護教養に意を用いねばならな
いその限界で定められているのが、やくそく、さだめ、である。

我々、大人、親の立場から考へて見ても、仲々実行不可能なことが多い。その意味で
scouting自体子どもと、と共に歩む道であると申せましよう。

操作り

近くの空地にテントを張る
が「小屋がけをする」これが操作りである。

代表的なあそびの3つの中の1つで
住居本能に基く。

操作
敵から身を守る安全性
夜に安眠が出来る場所
食事が出来る
物を貯える
風雨をしのぐ
寒暑を防ぐ
他の動物の進入を防ぐ
囲らんの場所
傷や病のなきすところ
時には避難所

以上の様に操作を作る時 そのあり方
を頭に画くより指導されたい。

次のものを必要とするが刃物を使は
すことには出来ないのであらかじめ用
意する。

木の枝 木の葉 竹 笹 ひも
ひわ 針金 むしろ ペク
その他工具類

なわむすびの応用を試みさせること

出来上りはスケッチさせること

なれば個人分担表や設計図もプロ
ゼクト法の導入になる。

出来上りは 講評したり評価せよ。

自然探求

カビングでは研究より 探求で
ある。

探求には発見が伴り。 感覚訓練で
ある。

学校教育は 観察 実験で科学教育
を導入する。スカウティングでは、そ
の上へ大自然の神祕や驚異を通して
宇宙の大生命の力の神祕 美と驚異
を味はされることである。

夜話をヨジえることによつて精彩を
做つことが出来る。

生物の形や色 美くしさ 不思議な
その動き 微妙な器官の構造、成長
繁殖等の夜話は 科学だけに止まら
ない 探求へと少年達を導くだらう。

そこに大きな愛を育て 往々にして
残酷性 残酷性に一転する憎しき打
ち勝つものは愛である

その生活の中に純真と誠実を植えつ
ける

探求の課題を設定する

樹木 木の葉 こん虫 花 貝
魚 池の中 川の中 山の傾斜
谷間 耕地等

実施は組毎 又は2人が3人で

用具は

記録は 組毎で

リーダ自身探求者であること

スケッチ

野外活動の楽しい記録 ねらいは
観察の記録である。

絵の上手 下手の問題ではない

合作スケッチ パノラマ分担がね
らいである。

スケッチの専 無戒無拘 激動し
たあとの作業によい。

観察と言ふ奥で取りあげる。

野外の食事と火起し
野外での食事は楽しいもの、簡
單な食糧を用意し 火おこしを
しの暖めて ぐらいの事はよい

火を作ることは 基本的ゲームと
考えてよい。

劇、ワイドゲーム コレクション
等は別途に行う

方位と地図づくり

カブの段階 4～6方位ヨで
方位感覚は日常生活に不可欠のもの
で年少の時期に基礎を教えねばなら
ない。野外が最適である。

磁力をおびた針 木面 紙面の実
験から
方位の知識に基く小地図作り

バイオニアの素地をつくる

劇

室 内
野 外
營 外 } 3大別

户外活動の根柢

- B.P. は キブリングの「ジヤングルブック」を基にカビングを創立した。カビングはジヤングルごっこであり、户外活動はそれの導入である。
- ジヤングルに子供達を呼びよせた最大の理由は { 大自然の作用の発見と現象(サイン)の受け取り方 } 即ち 観察と推理の教室と考えたのと大自然の不思議が宗教的に感得させよりと頼っている。そして一生懸命の基礎となる何かを掴むよりとした。カビングではこのことを狩りと見 この狩りの獲物……少年の性格(人格)をつくり、健康をつくると見る

○ 発生心理学 人間と動物と進化の過程の問題
本性の發揮

户外活動の種々相 ピクニックと野営

Picnic アメリカ	Exploration	EI帰り	イギリス
Expedition	作業的に厳しいもり	----->	野狩り：日本

その要素

- 遠足 冒険遊び 築作り、小ゲーム、スタンツ ワイドゲーム 自然探求
- 動植物の採集(コレクション) スケッチ、野外の食事(火起し)
- 野外劇 方位と地図作り、小營火 戲

足柄山物語と関連させる

野営と舍営 野営とは勿論スカウト野営である
一般人の野営—テントに寝 火事するに過ぎない。
カビングでは Tenting 家遊び ボーイ野営に導く助走路である。野外活動に興味を拂がすことを目的とする。

月の輪組にのみ課するのが適切である。

ウサギは半野営の形

火事は手伝い程度

特にスマートネスと秩序 生活指導を強調する。

舍営 Pack Holiday (英語)のこと) 学校、寺院等に泊つて野狩りに出かけることをいり。

事実 リーダーに取つて野営以上につがれるものである。
豊富なプログラムの準備と 日課表に織り込み方、必要な教材 教具は必須条件である。

生活指導が本命であると同時に 和と 幸福感をねらいとする。
舍営は開拓的になり勝てある故にスマートネスと秩序はD.C.以上の指導者の模範に期待される。

夜話 Yarn (ヤン) 時間的にこだわらない

訓、説、民、例、寓、対、梗、会、談話であつて童話ともお伽話とも全然異なつてニュアンスを持つ。

B.P. カブのリーダーに任意の時 カブ達へ話し注意を引くことが出来る
それを通じて教えようと思ひ科目が伝えることが出来る
これは失敗ではないものである。

カブプログラムの重要な部分である。経験をつむことによつて上手になる
營火は 夜話によつて目が入る。夜話は本命である。最も必要な栄養

やくそくの話でも夜話ですれば適切であるが訓話となれば退屈、いわんや説教になつては下中の下である。

夜話ほど聞き手に始動させるものはない 始動させてこそ夜話であり、指導であり得る。

始動、自發活動—宇宙の大生命力が各人の生命を通して脈管にありわれるやうの 夜話はそれを感じさせる 又さういひ意味で宗教への導入であるといひ 従つて單なるお話しではない。

何故夜話をするのか

霧雨煙をつくるため 和を作る娘と割かつてよい
いつするか いつでも どこでも { それがするのか }
田の指導者 いろいろの人から

夜話の作り方 は次頁の順で

夜話の作り方

- 話しを読み、自分のものとし、筋の運びをつくり、感傷的なものとする。前後の関連を調整する。
- 次に話のポイントを決め、自分で話して見抜け大虎、いいきわら話を文始めと終りをとへのせる。

話の仕方

- 自分自身で面白いこと
- 言葉をはつきり、自然に誠実にあざわらう、効果的に
- 即場と間(ま)に注意
- 対手から顔が見えるより、また自分が見えるより
- 話しそのものが教訓をあたえるのではなく、君が教訓をあたえるのではない。
- 長い話しが、ぶらこわし
- 話しながら、カブ達が大やいだつから成功である。

夜話での禁物

- こわがらずよりはもの
- 行きをすゝめる現行のもの
- 好戯的なもの
- 排他的なもの
- 悪口、中傷、非扱同の話

小 燐 火

- 従来サーカルファイヤと呼んでいた
- 火は皆が集まる前から炎火、デンばそク火を自爆で集まる形がカブ向である。
- 親切感を組りのぞ目的で哲学的には要素はない。
- しかし、指導者が試みる夜話を通じて、神祕とか、幽玄といひべき気分はほのぼのと浮び出るだらう。
- カブの燐火は合唱、スタンツ等で構成されるが、燐火の生命は実に指導者の夜話にかゝっている。
- カブの神經はナイーブであるから、昂奮し易い。その幾夜の眠りに影響するので、燐火の説きをしづめる工夫を忘れずに。

その際に、星空を仰いで静に星と語らせるよりは演出が必要である。

星の話もよ。

暖い飲み物をあえぐどよい。何が口に入れることになごやかにする。

ア外活動、会合を充実させるためにリズム、変化の盛りあがりが大切である。

その際に指導者はコンダクターが指揮棒をふるつていよいに細い神經を働かさねばならない。

時々歌い、時にゲーム、時には静にスケッチし、時には音楽をさせ、時には踊る、時には探險といきよくに異屈は禁物である。

カビングは人間だけでは組立てられない、大自然もその組立ての要素である。

取上られる課題の取扱について

追跡と忍び寄り

B_Pはカビングでも取りあげている。ウッドクラフトの入口として忍び寄りと同様不可欠のものである。

サインの発見と追跡の初步的なもの、少年隊少様にしてはなうぬ。

目的は觀察力、注意力の養成にある。

サインは組別くすること、必ずデンチフ、デンダットが見られないよう尾行する。

觀察、推理今まで伸ばすことは進しい。あくまで探偵ごっこ程度で

追跡は動物の本能であり、それをよい方向へ伸すことを本能の昇華といり(Sublimation)

忍びよりも同様である

自然物を利用し擬装する(細目)

以上カブには限友がある。それを超えると体力、耐力に無理が生じ逆効果を齎す。